令和３年度　松田町立松田小学校　学校だより　第５号

酒匂の清流

令和３年６月16日（水）発行　　校長　津田　将美

いのちの　授業

「あ～！！動いたあ！！！」
子どもたちから歓声が沸き上がりました。全員が食い入るようにスクリーンに映し出されたメダカの卵を見つめています。
「今、動いたね。何が動いたかわかる。」
「心臓かな。」
「血液みたいなのが、流れているよ。」
「うわっ本当だ！」
　小さな小さなメダカの卵の中で、命が一瞬動いたことへの感動と驚きがこちらにも伝わってきました。
　昨年度も授業をしていただいた富川孝治先生の「魚のたんじょう」の授業です。メダカの雌雄を見分ける方法などをわかりやすく楽しく教えたいただいた後、小さな命との対面をしました。
「みんなもね、１０年位前、このくらいの卵だったんだよ」
「そうなんだ…」
　興味関心が俄然高まってから、いよいよ受精卵の観察です。
　この卵は、富川先生が子どもたち一人ひとりにくださったものです。小さなガラスのケースに入っているので、そのまま解剖顕微鏡で観察ができます。子どもたちはいただいた卵の小さな命を熱心にスケッチしながら観察しました。

　小さなあわのようなものがあること、卵によってそのあわの数が違うこと、毛のようなものがはえていること、糸のようなものが出ていること、卵のまくが二重になっていることなど、子どもたちが気づいたことがまとめられていきます。そして、泡のようなものは油球（ゆきゅう）と言って、だんだん少なくなっていき最後はひとつになること、糸や毛のようなものはそれぞれ付着糸、付着毛といって大切な役割があること、卵のまくは受精した瞬間に二重になり、それが命のスタートであることなどを学習していきました。
　自分たちが気づいたことは、ひとつひとつに役割があり、それは命が少しずつ大きくなっていくために大切なものであることを実感できたようです。

　これから子どもたちは、いただいたガラスケースの中にある小さな命と向き合っていきます。日々、卵の中で姿を変えていくメダカの成長を驚きと感動をもって見つめていくことでしょう。

　特別の教科「道徳」や、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間など様々な授業の中で、「いのち」という主題は扱われます。そのひとつひとつは単独ではなく、つながっていき、子どもたちの心の栄養として少しずつ蓄えられていきます。その素地を広げていくために、身の回りにある小さなひとつひとつの「いのち」を大切にする心を日々の学校生活の中で育てていきたいと思います。

命と向き合う

朝の通学路、学校に戻る途中のJR松田駅まであと少しという道中で、２年生の男子が２名、地面にしゃがみこんで何かを見ています。

近づいてみると、死んでしまった小さな蜂をつまみあげているところでした。その子は道の真ん中にいた蜂さんを、そっと道路わきの木の根元におきました。

「やさしいね。そこだと安心して蜂さんも眠ることができるね。」

「うん。」

２人は、しばらく蜂さんを見つめてから、歩き出しました。きっと、蜂さんにお別れを言っていたんでしょう。私も並んで横を歩いていると、しばらくしてから今度はこんなことを話しかけられました。

「校長先生の犬、死んじゃったんだって？」

「そうなんだ、悲しくて校長先生、泣いちゃったよ。よく知ってるね。」

「うん、先生が教えてくれた。その犬ね、校長先生と過ごせて、きっと安心していると思うよ。」

「本当？じゃ、校長先生も安心しなくちゃね。」

「そうだよ。」

「じゃ、これから元気にがんばるよ！」

「うん。」

小さな命に寄り添う経験は、自分自身の命を見つめ直すきっかけにもなります。そしてひとつひとつの命を意識することで、自分の周りの人や生き物に対して、よりやさしい気持ちを向けることができるようになるのだと思います。

朝の何気ない会話から、元気をもらうことができ、学校に向かう足取りも軽やかになりました。

学　年　協　業

今年度、児童理解と協働で進める学年経営のために、学年協業の授業を実践しています。無理せず学年の実態に合わせて行っていこうというスタンスですので、すべての学年で行っているわけではありませんが、少しずつ実践が進んできています。

６年生は４月のスタートから、社会と理科でクラスを入れ替えて授業を行っています。普段と違う雰囲気の中、程よい緊張感をもって授業は進んでいます。

５年生は、書写の時間に３クラスの担任が入れ替わって授業を行っています。

２年生は、国語の小単元と外国語活動を入れ替えて、活発な授業が行われていました。

職員は、松田小学校すべての児童の担任であるつもりで指導にあたっています。児童の中にも、自分の担任の先生、気軽に相談できる先生のイメージが少しずつ膨らみ、その人数が増えていってくれるといいな、と思います。

水は　どこから　6月11日(火)

４年生社会科に、「水はどこから」という学習があります。町の環境上下水道課の方に来て

いただいて、私たちがふだん飲んでいる水がどのような過程を経て来ているのかを学びました。ふだんと違う先生の授業に、子どもたちも真剣にメモを取りながら話を聴いていました。

世界で安全に水道の水を飲めるのは、日本も含めて９か国しかないということに驚くと共に、感謝の気持ちも大きくしているようでした。

「知らないことが、たくさんあった。」

授業の最後の子どものつぶやきが印象的でした。